

明日 への 話題

兜町の再開発 ～2030年には カラフルな街に～



平和不動産
代表取締役社長

つちもと きよゆき
土本 清幸

不動産業に転じて3年。不動産デベロッパーとして兜町の再活性化に従事している。我が国資本市場の基幹システムである「東証Arrowhead」はミリ秒（1000分の1秒）の世界でその速さを誇っているが、街づくりは1プロジェクト10年の世界である。10年後の兜町をどのような街にしていくかと想像しながら再開発に取り組んでいる。

街には、その街の「顔」がある。かつての兜町の「顔」といえば、「立会場」。立会場の賑わいこそが、兜町の賑わいであった。ただその賑わいは、日本人、男性、ダークブルーのジャケットで構成された、いわば「単色」の賑わいであった。これに対し、10年後の兜町には、カラフルな賑わいをもたらしたい。働く人もいれば、住む人、泊まる人もいる。海外からの世界的研究者もいれば若手ミュージシャンもいる。そんな色合いのある街に変えていきたい。その上で、再開発では、そのエリアが持つ特性を伸ばしていくことが大切であり、やはり兜町では「金融・証券分野」でエッジを効かせていくことが不可欠であろう。

このような基本的考え方のもと、第一弾として来年中に竣工予定で進めているのがKABUTO ONEであり、「国際金融都市・東京」構想の一翼を担う国家戦略特区計画である。企業と投資家の交流拠点となるホール、カンファレンス、ライブラリーラウンジでは、特色あるセミナーやイベントを企画していく。「論語と算盤」を唱えた渋沢栄一が拓いた街らしく、10年後にはこの施設が「アジアにおけるESGの殿堂」と呼ばれるような存在になっていれればと願う。さらに、1階から3階まで吹き抜けのアトリウムで展開されるマーケットの情報発信機能は、街の「あたらしい顔」となる。

また、兜町は、明治時代、事始めの街であった。今風にいえば、「スタートアップの街」。この特性を活かし、KABUTO ONEに先行して資産運用業及びフィンテック系スタートアップ企業の集積を進めつつある。すでに「FinGATE」ブランドのオフィスに50社近い企業が入居し、スタートアップのエコシステムが生まれつつあるという手ごたえを感じている。10年後には兜町の特徴を表すブランドとして定着していることだろう。

いずれにしても街づくりは息の長い仕事である。行政、地元、テナント、来街者等の関係者の皆様のご理解とご協力をいただきながら、SDGsの「カラー」を満たしていくという思いも込めながらカラフルな街づくりに邁進してまいりたい。